

# 2008年度目標に対する 2007年度の実績と2010年度目標

JR東日本の「環境目標」は、単年度ごとに定量的・定性的に実績を把握し、課題のある項目については、その原因を探ることで経年の改善に活かしています。

## 2008年度環境目標の達成状況と2010年度環境目標

環境保全活動の分類	項目	2008年度目標	基準値(1990年度)
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のCO <sub>2</sub> 総排出量	(1990年度比) 22%削減 (215万t)	276万t-CO <sub>2</sub>
	自営火力発電所からの単位発電量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量	40%削減	726g-CO <sub>2</sub> /kWh
	省エネルギー車両比率	82%	—
	【新設】列車運転用電力量	—	—
	単位輸送量あたり列車運転用消費エネルギー	19%削減	20.6MJ/車キロ
	【新設】単位輸送量あたり列車運転用電力量	—	—
	【新設】駅・オフィス等における省エネ	—	—
	特定フロン使用大型冷凍機	100%削減	82台
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	45%	—
	総合車両センター等で発生する廃棄物のリサイクル率	85% (対象4年間平均値※1)	—
	設備工事で発生する廃棄物のリサイクル率	92% (対象4年間平均値※1)	—
	一般廃棄物のリサイクル率	43%	—
	事務用紙の再生紙利用率	100%	—
化学物質管理	自営火力発電所からのNOx排出量	63%削減	994t
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策※2 75dB以下 (騒音対策対象地域について)	100% (2009年度達成目標)	—
環境コミュニケーション	毎年具体的な環境保護活動	森づくりへの参加等	—
環境マネジメント	【新設】全グループ会社が具体的な数値目標を設定	—	—

表内   はグループの目標

(注) 2008年度目標については、継続して目標達成状況のフォローを行う。

※1 対象4年間平均値 2005年度～2008年度の平均値 ※2 東北・上越新幹線騒音対策 2006年度から対策地域を拡大し、2009年度達成目標として取り組んでいます。



2007年度実績	進捗	2010年度目標	参照ページ
23%削減(212万t-CO <sub>2</sub> ) …温対法 24%削減(209万t-CO <sub>2</sub> ) …対目標管理数値※3		(1990年度比) 2030年度までに50%削減 276万t-CO <sub>2</sub> ⇒138万t-CO <sub>2</sub> [138万t-CO <sub>2</sub> 削減]  (1990年度比) 2017年度までに32%削減 276万t-CO <sub>2</sub> ⇒188万t-CO <sub>2</sub> [88万t-CO <sub>2</sub> 削減]	P24~P27 ・Web
37%削減(456g-CO <sub>2</sub> /kWh)…温対法 40%削減(433g-CO <sub>2</sub> /kWh) …対目標管理数値※3		CO <sub>2</sub> 排出量の管理は「鉄道事業のCO <sub>2</sub> 総排出量」で行うため目標設定はなし	
85%		86%	
41.4億kWh	—	2%削減(2006年度比) 41.7億kWh⇒40.9億kWh [0.8億kWh削減]	
14%削減 17.8MJ/ 車キロ…省工手法 17%削減 17.0MJ/ 車キロ…対目標管理数値※3		原単位の管理は、新設する「単位輸送量あたり列車運転用電力量」で行うため目標設定はなし	
1.83kWh/車キロ	—	2%削減(2006年度比) 1.85kWh/車キロ⇒1.81kWh/車キロ [0.04kWh/車キロ削減]	
161億MJ	—	4.5%削減(2006年度比) 153億MJ⇒146億MJ[7億MJ削減]	
100%削減		2007年度達成	
64%		70%	
93%		95%	
92%		92%	P28-Web
48%		全グループ会社が個別に数値目標を設定することとしたため目標設定はなし	
92%※4		100%	
67%削減(330t)		現状の技術レベルで可能な対策が完了したため目標設定はなし	Web
63%		100% (2009年度達成目標)	P29-Web
15箇所 3.7万本 3,500人参加		森づくりへの参加等	P30
—		全グループ会社が数値目標を設定	P12-Web

### 2007年度の実績について

2007年度は、7項目において目標達成となりました。今年度も、地球温暖化防止への取り組み項目のうち、3項目の実績値については、法律に基づく係数のほか、当社の取り組みの経年変化を把握するため、2008年度目標を設定した際の係数による数値を併記しています。

CO<sub>2</sub>排出量については、2006年度と比較してほぼ同水準となりました。2007年度は2006年度に比べ河川水量が少なく、自営水力発電所の発電量が少なかったため、自営火力発電所の稼働率を高くしました。そのため自営火力発電所におけるCO<sub>2</sub>排出量が増加しましたが、一方で電力会社のCO<sub>2</sub>排出係数が改善されたため、CO<sub>2</sub>排出量は結果的に2006年度並になりました。

2008年3月末に「グループ経営ビジョン 2020 -挑む-」を発表し、これを受けて2008年6月には、2008年度を達成年度としてこれまで取り組んでいた環境目標の改定を行いました。新たな目標設定を行い、これまで以上にCO<sub>2</sub>総排出量の削減に向けた取り組みを推進するほか、従来から取り組んできた廃棄物のリサイクルについてもさらに高い数値目標を設定し、取り組みを進めていきます。

### 2008年度目標達成に向けた進捗度

達成  
……………順調  
……………やや遅れ

※3 対目標管理数値 当社の取り組みの経年変化を把握するため、2008年度目標を設定した際の係数(日本経団連環境自主行動計画、電気事業連合会の係数を参考に算出)による数値にて目標管理しています。※4 事務用紙の再生紙利用率 再生紙の取り扱いについては、メーカーが再生紙として販売したものは再生紙として集計しています。